



会長あいさつ



高崎高校翠巒体育会

会 長 山 口 正 敏

私はこの度、岩田武雄会長（五三期バスケット部）の後を継いで、翠巒体育会の会長をお引き受けすることになりました。

思い起こしてみますと、昭和四十八年五月に、初代会長の國峰善次郎氏を中心に、運動部のOBの方のご努力により翠巒体育会が創立されたわけですが、早いものでそれから二十数年の歳月が過ぎたわけではあります。

私は当時の深沢昇会長（五七期卓球部）に言われて、軽い気持ちで体育会の役員名簿に名を連ね、以来体育会に密度の濃い薄いはありますが、関わりを持って

まいりました。それが今回、会長という重責を担うようになるには夢にも思いませんでした。

ここで、改めて翠巒体育会の会則を讀み直してみますと、会則第五条に、「この会は、高崎高校運動部を後援し、会員相互の親睦を図ることを目的とする」と謳ってあります。

これは、第一には、現役運動部が物的、人的、精神的に必要なれば体育会が全面的に協力をし、それによってよりすばらしい活躍を期待する、というものです。また第二には、各々の運動部OB会の充実および親睦のみならず、OB会そし

て会員同士の親睦、互助交流を積極的に図ることにより、資質の向上とOB会の発展を旨とするというものです。そのためには、母校の先生方、同窓会の役員の方々とも交流を深め、連絡を密に取ってゆく必要があると思います。

そして第三には、未だ歴史の浅い運動部OB会についても、積極的に協力し合っ、体育会にできるだけ加入してもらおうように働きかけてゆく必要があると思っています。

そのための最重要課題として、まずは財政面の再検討を行う必要があると思えますので、役員および会員の皆さま方のご意見とご協力をお願いしたいと思います。

スポーツは人の心を豊かにする

過日、私はテレビ放送で、東大に合格した盲目の子どもの生い立ちを取り上げた番組を観る機会がありました。それは、全盲の子どもとその母親の並々ならぬ努力によって、中学・高校の普通学級に通い、ついに念願の東大に合格したという内容でした。

私は非常に感動させられました。そのいくつかのエピソードの中のひとつに、中学生のときに運動会の百メートル徒競争で何度となく失敗を繰り返しながら、最後に友達の協力で友達の声を頼りに完走した姿を観たときは、久しぶりに体が震えるほどの感動を覚えました。そして、そこに改めて、スポーツの原点を見たような気がしたのであります。

高崎高校は進学校ですから、文武両道

の校風とはいえ、「文」に重点がかかるのはやむを得ないことかもしれませんが、青春時代の貴重なひとときを、スポーツを通して体を鍛えることは心を豊かにすると思います。また、すばらしい仲間を作れることもできると思います。もちろん知育も大切ですが、体育が青少年期の情操教育に大きな役割を果たしていることは見逃すことのできない事実なのです。

大きな大会で実力を発揮してほしい

ところで学校創立八十周年では、記念事業としてグラウンドの改修がなされました。さらに九十周年では翠巒会館の改築が行われています。そして私たちはこれから平成九年に百周年を迎えますが、その記念事業として、同窓会館の建築および百年史の編纂という方向で、すでに募金活動も始まったようですので、体育会としても大いに協力してゆきたいと思っています。

そして、この百周年に向かって各運動クラブが実力を発揮して、大きな大会に好成績を残すような形で力を出していただいたいと思っています。そのためにも体育会としては、これからもスポーツ環境の充実に努力してゆきたいと思えます。

私たちOB会は、これからも、より以上に、生徒たちがスポーツをのびのびと楽しめるように見守ってゆきたいと思っています。重ね重ね、会員の皆さま方の絶大なるご理解とご協力をお願いいたします。

新任のご挨拶



高崎高等学校

校長 古川 功

堀口康平前校長先生の後任として、この四月、本校に着任いたしました。赴任早々の第一番に担当職員を通じて、「翠巒体育」への寄稿依頼をいただき、その

ダッシュのあまりの見事さに「さすが高々」と驚嘆しつつ筆をとっている次第であります。

さて、翠巒体育会は、発足以来すでに21年を閲し、その機関誌も創刊20年目という記念すべき節目の年を今年迎えるにいたったわけであり。会創設以来幾多の先輩各位の母校へ寄せられる烈々たる御厚情と御熱意、後輩生徒達へ贈られる物心両面の暖かい御支援御援助に、対し、まずもって忠心より御礼申し上げます。

うかがうところによれば、本会は、本校各運動部OB会員をもって組織され、会員相互の親睦と母校運動部への後援を目的として設立・運営されている、とのことであり。単一の各部のOB会・後援会の枠を越えて、統合体として大きな巾広い組織は全国的にも珍しく、本校各部に所属する生徒顧問・保護者にとり

まして、また学校全体にとりましても本心に強く、まことにありがたいことでもあります。

心尽くしの御支援御助力を賜って、活動に更なる力と励みをおぼえた例は、おそらく枚挙に暇なきことと存じますが、近年は、本会設立の頃といささか局面を異にし、運動部活動での実績を学校創建の一つの大きな特色としてうち出す私立高校の胎頭や、実業学科専門学科を多く有する高校のスポーツ振興の余波を受けて、普通科高校の運動部活動がやや頭うちとなる傾向を認め、という状況であります。そうした中であつて我が高崎高校は、低迷をかこつ時期もあつたやうにうかがいますものの、ここ数年めざましい健闘を続けております。

例えば、県下の全ての高校が集うて競う、本県の高校スポーツ界最大のイベントの一つであります。県高校総体におきましても、本校は平成4年度総合11位、5年度同4位、6年度同3位という躍目の成果をあげ、なかんづく昨年は、

本会報に報告されているような関東・全国における活躍ぶりをみせております。

このことは、歴代の校長先生方が、高々生の底力を遺憾なく発揮せしめんとすべく、明確な目標を示し、指針を掲げて学校活性化に尽瘁されたその御努力を受けて、本会をはじめとする多くの関係各位の御支援御協力を賜りつつ本校の職員生徒が一丸となつて勇往邁進した成果であり、高々精神のたくましく発揮を象徴する事実であると申せましよう。

一般に、普通科高校の生徒、とりわけ入学者全員が大学進学を志すいわゆる進学校においては、生徒達は一様に、大学受験突破を第一眼目とする濃密な時間対応・学習時間の質量確保を図る自己との闘いをどう貫くか、というシビアな課題を負っており、「勉強」と「部活動を中心とする特別教育活動の充実」との両立は、言うに易く行うに難き側面をもつております。高々生も例外ではありません。

しかしながら、日常の教科科目の学習とは異なる場面で、未来を担う若者にふさわしい体力、気力、集中力、継続力、団結力、目標達成への飽くなき自己錬磨力等を培える機会としての部活動のもつ教育的意義はきわめて高いものがあり、特別活動で目をみはる力を発揮する者は同時に学力面でもめざましい進捗を遂げる者であることを実証した例は挙ぐるに事欠きません。特に、同じ目的を掲げてグラウンドやコートで共に汗し、青春の輝きを一点に凝縮させつつ更に高度なプレーの達成を励みあつた仲間とのかわり、困難に直面した際の何よりの力であ

り、深めあえた友情の厚さは、あるやもしれぬ学習面での行き詰まりをきたしたかに突破する最大の推力となり得る貴重なエネルギー源なのであります。

かかる理由から、本年度の本校におきましても、まもなく百周年を迎える栄光ある歴史と輝かしい伝統を、三F精神の常なる発揮を標榜する校訓を堅持することによって更に輝かしめ、進取精進の実践力を継承発展させつつ、学力の伸長と共に部活動を主軸とする特別教育活動の重視を他校以上に重んじ、教育活動上の最重要目標として設定した次第であります。

部活動をはじめとする特別活動分野での振興が学校を活気づけ、ひいては学力や進路達成率の充実に向上にはずみをつけることは、本校における大学進学者中、部活動経験者が高比率を示すことですので、実証済みであり、それを支えて下さつた翠巒体育会をはじめとする関係各位の御尽力に心からの感謝をささげるゆえんであります。

どうぞ今後とも母校生徒への変らぬ暖かい御声援・御激励を賜りますようお願い申し上げます。御礼をかねての新任の御挨拶に代えさせていただきます。



OB会の活動(1)平成六年度現況報告

ラグビー部

上羽 正弘 (72期)

高崎高校ラグビー部OB会は、設楽嘉男会長3期目を迎え、本年1月8日護国神社において新年総会を開催。昨年度OB会活動及び決算報告ならびに本年度事業予定が発表され、すべて承認された。

総会において、本年度に予定されている、高崎高校ラグビー部創部五十周年事業の計画案が上程され、出席OB諸先輩のご賛同をいただき、いよいよ事業の具現化へのスタートを切ることとなった。事業計画は、記念誌(史)の発行を柱とし、記念祝賀会の開催・エンブレムの製作等が企画立案されており、中原射鹿止(55期)先輩を実行委員長に据え、すでに準備を始めているが、記念誌(史)の原稿依頼資料の収集の他資金あつめ等まだまだ解決すべき諸問題を抱えており、OB諸先輩のご協力をお願いしているところである。

また、本年は総会に先立ち、本校グラウンドにおいて、三十余名の若手OBを迎え、現役OB戦を行った。近年にないOBの参加を得られ、久し振りに熱気あふれるゲームがくりひろげられ、OBの意気軒昂な所を見せると共に、久しく低迷

の続く現役諸君への起爆剤となれば幸いであると思われた。

昨年度OB会活動の現況であるが、例年どおり三回のOB会会報の発行により、現役及びOB会活動の近況報告を行った。

また、OB会費の徴収は例年に比べ若干減少したものの、現役強化費等の拠出において、大いに役立っており、今後とも先輩諸兄のご理解をいただきたいと考えております。

陸上部

坂本 正樹 (71期)

毎年恒例となったOB会を平成六年一月二六日に行つた。今回は比較的卒業後数年の者が多く、二次会のカラオケではついていけないOBも続出した。とはいうものの、今回参加した若手諸君が今後OB会の大きな力となっていくことが期待される。

また、OB会の主催ではないが、毎年大晦日に母校の体育館で現役、OBが集まり「一〇〇〇点バスケット」を実施している(顧問の岩井先生の人気からか、某女子高のOGの参加もある)。これはどこかのチームが一〇〇〇点はいるまで続けられるというバスケットボールで、七から一〇時間かかるという壮大なものであ

る。もちろん、途中の交代は自由であるが、一度コートに入った以上はそう簡単に交代するのでは先輩としてのメンツがたたないので、つい頑張り過ぎ、正月は寝正月にならざるを得なかったOBもいたとか。

OB会の行事に参加する者の数も多いとはいえないが、今後OB会の行事を工夫するなどしてより魅力あるものにしたと考えている。

バレーボール部

高橋 浩生 (78期)

平成六年度もOB総会、新年会共に無事に開催され、両方の会の特徴とも言うべき、会員一人一人の自己紹介並びに近況報告が和やかなるうちになされ、更なる親睦を深めました。

今回の現況報告としては、バレーボール部で結成されている翠巒クラブについて報告させていただきます。

バレー部翠巒クラブは十年前に発足し、平成六年までに六人制の部に於て、九年連続群馬県大会優勝、全国大会出場を果たしております。また、昨年は群馬県の国体強化チームに指定され、千葉県で開催されたミニ国体に出場し、千葉県代表の実業団チーム、コスモ石油に善戦し、「群馬に翠巒クラブあり」と、アピールしたのではないかと思います。

平成七年は、翠巒クラブにとつて、十年連続全国大会出場が達成されるか否かという大切な年となっております。十年

連続出場が達成されますと、全国に於て表彰されるのですが、この表彰を受けたチームは、全国でもまだ数チームしかなく、しかも我がチームが受賞できるとすれば、教員で組織されたチーム以外では初の受賞となるのではないかと考えられます。

このようなことから、全員一致団結し、何としてもこの偉業を成し遂げるつもりでありますので、バレー部OBだけではなく、翠巒体育の皆様方にも応援のほど宜しくお願いいたします。

最後になりますが、現役生も田口哲男(75回)先生、木暮弘(82回)先生のもとに頑張っておりますので、現役生のご支援も宜しくお願いいたします。



OB会の活動 (2) 平成六年度現況報告

軟式庭球部

丸山 博 (68期)

私たち軟庭部OB会は、塚越会長を先頭に、毎年8月お盆の土曜日に、高々テニスコートにて現役との交流試合を開催しています。

例年30人くらいの参加者が集い、これを楽しみに東京から毎年参加しているOBもいます。現役も仲々レベルは高いのですが、OBはいつも優勢で、現役への刺激剤ともなっていると思います。

交流試合の後は6時から駅前の長谷川ホテルで懇親会を行い、青春の思い出を語りあっています。
今年(平成7年度)もまた実施する予定です。この輪をますます大きくしてゆきたいと思っています。

バスケットボール部

橋爪 良真 (75期)

われわれバスケット部OB会では昨年度次のような行事を行いました。

恒例のものとして、五月に翠樹会館にて総会。十月には有志による市民大会参加。正月元旦から現役との交流試合。三

月父母会と合同で卒業生を送る会。

さらに、記念行事として、十一月には高崎ビューホテルにて清水貞保先生の傘寿を祝う会開催。二月には、家族参加による親睦会をJOYへいあんにて開きました。

まだまだ会の活動は私どもより先輩のOBが中心です。現在の課題はいかに若手OBの積極的参加を促すかです。

卓球部

高橋 茂樹 (83期)

卓球部のOB会では、一月一日に新年会と卓球大会を行っている。例年は決勝がOB同士のことが多いのだけれども、本年は、例年に比べて現役のレベルがあがってきている。特に、2年生の北村君は、久しぶりに県のランカーとあつてな

みいるOBたちを倒して決勝に出てきた。決勝では残念ながら負けてしまったが、今年の成績が楽しみである。噂によると今年も中学校の時に、県のランクに入った選手が入学するということ、高崎高校の活躍が期待される。

OBの中には、現役でプレーをしているOBもいて、活躍をしている。特に、高崎工業の教諭をしている針谷正紀氏は、全国教職員大会50歳代の部で見事全国優

勝を遂げることができた。全国教職員大会は元全日本チャンピオンで全日本選手権3連覇をした斎藤清選手もでたりしていて、非常にレベルの高い大会である。また、勝つと全日本ランキングのポイントに加算される結構大きな大会である。針谷氏ほどまでいなくても県の成績の大会に出ているものもある。最近、後輩で卓球を続ける者が非常に少ないので、是非とも続けて欲しいと思う。

最近では、OBも卓球よりもゴルフのほうが良いという人が多いので、是非一年に一回はラケットを握って欲しいと思う。巷でも、「天才卓球少女愛ちゃん」のおかげで卓球も目の見ることになったのは大変喜ばしい事である。「卓球は暗い」とタモリが「笑ってもいい」ともで言ったおかげで卓球人口が減ってしまったのがマスコミの「愛ちゃん」報道で復活してきたのは皮肉としか言いようがないが、是非、愛ちゃんにはがんばってもらって高崎高校卓球部にもたくさんの部員に入ってもらいたいものだと思う。

剣道部

飯野 一彦 (74回)

剣道部OB会(「高高剣友会」と称する)は結成以来四十年を経過し、会員数も三百名にならんとする大きなOB会に発展してまいりました。これは県内の他の様々なOB会組織と比較しても、決して劣ることのない立派な会として会員一同誇りにすべきことではないかと思っ

ております。さて、その活動ですが、昨年また全日本剣道連盟主催の剣道昇段審査会において、新たに剣道六段、七段合格者を輩出しました。また、県内の社会人剣道大会での団体戦三位をはじめとして、各種の大会において、出場した剣友会会員が皆好成績を収めております。さらに、県内の多くの試合に審判員として依頼される会員も急増しております。これらは、本会の充実ぶりを示すとともに、本会の県内での高い評価につながっております。

しかし、こうした充実した活動の一方で、事務をあずかるものとして、多少の危惧を感じていることも事実です。それは、新年総会への比較的若い世代の出席が漸減傾向にあることや、現役が行う春夏の合宿への参加もここ数年メンバーが固定されているように思われること、また、会が大きくなることの宿命なのか、上下の世代のギャップも時に見受けられるようになってきました。

こうした背景から、我々剣友会では昨年度、事務局を一新し、新たな一歩を踏み出しました。OB会の大きな目的に、「会員相互の親睦」と「現役への援助」があるとすれば、そのためにはやはり会員一人ひとりが、OB会に愛着を持ち、何らかの形で積極的に会の行事に参加してゆくことではないかと我々は考えています。

この理念のもと、我々剣友会では今、これまでの活動を単に踏襲してゆくだけでなく、これまで積み上げてきた伝統の

上にさらなる発展を目指し、今後とも魅力ある、より活力のある会にしていこうと会員一同誓い合っているとあります。

サッカー部

清野 哲雄 (74期)

翠樹クラブは、昨年の群馬県社会人サッカーの二部リーグでは、一歩及ばず第三位で終了しました。昨年の反省を糧に若手の増員・増強を図り、現在ベテランと融合した強いチームとなつて来ましたので、今年の活躍が期待されます。

今年の行事日程は、一月二日の初蹴会と一月十四日の総会・新年会が無事行われました。なお、引き続き阿久沢茂会長(69期)のもと新入会員を含めて、総勢四五〇名の大所帯となりました。

昨年は、第三回の高高・前高サッカー部OB会交流試合が、夏に行われましたが、今夏は前高主催にて予定されております。OB会員には、奮って御参加頂きたいをお願いします。

今後現役への物心援助をして参りますが、会員には、現役の練習や試合に応援のほどよろしく願います。また翠樹クラブでの選手を募集しておりますので、希望者は、高橋義昭(74期)まで御連絡をください。



同窓会ゴルフ大会レポート'94

優勝は柳井晃洋(59期)さん

ベストゲロスは

沼賀勝平(55期)さん

第一回高高同窓会ゴルフ大会が平成六年十二月二日(金)・県営新玉村ゴルフ場に於て行われました。

当日は晴れ、微風の絶好のゴルフ日和でした。高商・高工・農二の招待プレーヤーを加え、総勢一六一名の参加によって盛大に催されました。

最年長は四五期の室賀・狩野・池田・金子・白田・金井・市川・梁瀬の先輩。最年少は七五期の清水・藤巻・野口さん。

四五期から七五期まで、殆んどの期が参加し、高高同窓会の親睦を充分果たせたすばらしい大会でした。

プレー終了後、本大会実行委員長・山口会長の挨拶の後、表彰式が行われました。

又、本大会の上位グロス十名を表彰し、この十名を平成七年度の群馬県下高校OB対抗ゴルフ選手権大会の選手と致しました。

選手権大会での活躍を期待いたします。(丸山・60期)

■ グロス

グロス	期	氏 名	アウト	イン	グロス
1	55	沼賀 勝平	39	39	78
2	66	小野里 篤雄	39	40	79
2	60	島田 幸夫	38	41	79
4	62	高橋 健	37	43	80
5	54	川倉 宏之	39	42	81
6	68	小林 良明	43	39	82
6	54	渡辺 誠	38	44	82
6	60	福田 邦久	43	39	82
6	69	八島 達彦	43	39	82
10	60	若林 智	44	39	83
10	68	梅沢 寛	41	42	83
10	71	堤 康高	38	45	83
13	63	立見 友孝	41	43	84
13	62	小島 詳司	43	41	84
15	52	内藤 量夫	45	40	85
15	57	深沢 昇	40	45	85

*商：高商のゲストプレーヤー
*農：農二のゲストプレーヤー

順位	期	氏 名	グロス	HC	ネット
優勝	59	柳井 晃洋	85	15.6	69.4
準優勝	68	梅沢 寛	83	12.0	71.0
1	商	田中 正男	82	10.8	71.2
2	60	福田 邦久	82	10.8	71.2
3	54	川倉 宏之	81	9.6	71.4
4	69	阿久沢 茂	93	21.6	71.4
5	52	金井 泰純	91	19.2	71.8
6	53	室賀 正三	91	19.2	71.8
7	66	小野里 篤雄	79	7.2	71.8
8	55	沼賀 勝平	78	6.0	72.0
9	75	野口 茂	96	24.0	72.0
10	53	滝沢 勇	94	21.6	72.4
11	68	庭田登志男	88	15.6	72.4
12	62	江原 秀治	87	14.4	72.6
13	62	高橋 健	80	7.2	72.8
14	55	武藤 誠一	85	12.0	73.0
15	農	塚越 雅春	97	24.0	73.0
16	63	川原 英雄	102	28.8	73.2
17	64	高見沢 滋	90	16.8	73.2
18	57	飯島 勇	89	15.6	73.4

特別寄稿

万座スキー学校

校長

黒岩達介 (52期)

「スキーを生涯スポーツに」

——社会体育指導者の夢——

いま、日本で行なわれていているスポーツ種目はどれくらいあるであろうか。文部省の調べによるとその数六〇〇種余りに及ぶという。多くの方々は人気スポーツ以外はご存知ないと思うが、それにしてもその数には驚く。

その背景には近年大幅な労働時間の短縮により自由時間が増加し、余暇時間の増大につながり、結果としてスポーツに関心を持ち、楽しむ人たちが増えているといえる。

また、スポーツをする場も公共スポーツ施設や学校だけでなく、フィットネスクラブ、各種スポーツクラブのほか、リゾート関連のスポーツ施設、さらにアウトドア志向のスポーツ マリンスポーツ、スカイスポーツと大きく広がりをみせ、しかもスポーツを実践する人々が、若い人たちだけではなく、幼児からお年寄りまで、その年齢層も厚くなっており、真

にさまざまな人たちが多種多様な内容と目的をもってスポーツに親しむ時代となっている。スポーツ全盛、生涯スポーツ時代が実感として感じられる今日この頃である。

話はいささか溯るが、昭和三十九年、東京オリンピックが開催された年、私は単身オーストリアにスキー留学した。同国はヨーロッパの中でも決して大きい国ではないが、当時から世界に冠たるスキー強国と知られ、競技者、指導者共に優れていた。私は縁あって、同国の国立スキー学校の主宰者であり、国際的にも著名な指導者、ステファン・クルツケンハウザー教授に師事する光栄に浴し、国家検定スキー教師養成コースに入り、二年間に亘りスキー教師としての専門的な知識と質の高い技能、指導法を修得する機会を与えられ、また、この間、慈父ともいえるク教授から多岐に及ぶ貴重にして

得たい教訓と多大なるご支援を併せて頂いた。

とりわけ、私が長期にわたりオーストリアに滞在できたのは、ク教授の親日家としてのご配慮なくして全く不可能なことであった。その上、養成コースに在籍した私は、費用面でも同国の五〇%の補助を受けた。ちなみに同国が国家検定スキー教師の養成に国の補助を導入したのは、実に一九二六年(大正十五年)である。日本の面積の四・五分の程度の小さい国でありながら、スポーツに対する考え方、位置づけというものが余りにも違うのに驚く。

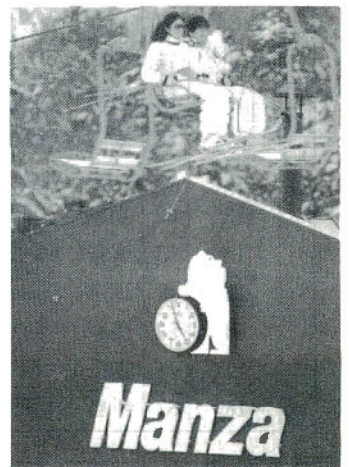
私が幸いにしてオーストリア国家検定スキー教師の資格取得して帰国するにあたり、ク教授は改まって私にこう言われた。

「二年余りに及ぶオーストリアのスキー教師養成コースで学び、取得した資格は、ユキ(当時の私の呼称)お前一人に与えられたものではない。」と前置きし、「一つは郷里の万座温泉スキー場に日本に誇れるスキー学校を築くこと。二つには、将来日本においてもオーストリアのよう

に国家検定スキー教師の養成が国によって必ず行なわれるようになる。その時にはオーストリアで学んだシステム、組織的運営方法等是非役立てて欲しい。」そして最後に「これからは家族を大切にしてください。」とつけ加えられた。時に一九六六年(昭和四十一年)十二月末のことである。

それから時は流れて三〇年にならんとしている今、冒頭にも述べたように世は真にスポーツ全盛の時代となった。私ごとで恐縮だが万座温泉スキー場に万座スキー学校を開校して二十八シーズンが過ぎた。

願れば、開校当時は、ク教授の言葉を心として、スキーにかけける情熱とスキーに魅せられた男のロマンといったものが私の全てであった。当時は未だスキー学校という企業は存在していない時代であり、まさに非現実的な未知の世界への挑戦であった。当然のことながらこれまでの道は実に険しい道程であった。雪の降らない暖冬に悩まされ、第一次、二次のオイルショック、己の不注意による大腿骨骨折事故、校舎・宿舍施設の拡充、バ



ブル経済の崩壊等次から次へとのかかる大波にゆらぐ小舟の如く、まさに波瀾万丈であった。

しかし、幸いにして私に共鳴してくれた多くの若者に支えられ、また、各界各層のスキーヤーとの出会いに始まり、スキーを通じての友好、ご支援、ご愛顧を頂きながら年を重ねる中で小規模ながらオーストリア国立スキー学校の運営形態を学びつつ今日に至っている。

一方、日本国内の学校体育(保健体育)をのぞく民間のスポーツ指導者養成の現状はというと、実は未だ国家検定制度という域に達していない。世界に冠たる経済大国日本があるのである。しかし、昭和六十二年一月には、文部大臣認定「社会体育指導者資格付与制度」なるものが施行され、国が一定の水準を定めた資質の高い社会体育指導者の養成事業に踏み切り、今年で八年目を迎える。

実は、この制度が告示されるまでに、文部省の諮問機関である保健体育審議会のワーキング・グループの諸先生方から当時スキー関係団体役員であった私達に諸外国のスキー指導者養成システムの諮問があり、およそ五年余りに及ぶ検討期間を経て実施されたのがこの制度である。現在、(財)日本体育協会はじめ傘下の各スポーツ団体及びプロの各スポーツ団体が、国の事業認定団体として、文部大臣認定社会体育指導者の資格付与を行ない、各団体間の資格基準の是正にもあたっている。一方、同資格取得に繋がるカリキュラムに準拠した教育を施す大学、専門学校も既に存在しており、私もその一つ

の日本社会体育専門学校のスポーツ教育学科、スキー専攻コース主任を務め、これまで五期に亘り同有資格者(プロの指導者)を世に送り出している。

これからの日本のスポーツの健全なる普及発展を考える時、スポーツを实践する人口増加、多様化、高度化したニーズに対応できる「質の高い社会体育指導者」の養成は必要不可欠であり、指導者自身その役割が極めて重要であることを認識し、その使命を果さなければならぬ。その為に今、関係する官民一体の組織的なフォローによって、いよいよ有資格者(文部大臣認定指導者)の適切な活用が、スポーツ界全体の課題となっている。

最後に、過去四十有余年に及ぶ私のスキー経験からして、何故これ程までにスキーに執着して生きてきたのかと自問し

てみる時、「もし、全ゆるスポーツの中で王者の名に値するものがあるとすれば、それはスキーをおいて他にない。スキーほど筋肉を鍛え、身体をしなやかにし、しかも弾力的にし、注意力を高め、巧緻性を養い、意志力を強め、心気を爽快にするスポーツは他にない」という、かの有名なフリチヨフ・ナンセン(一八八九年、スキーでグリーンランドを横断した探險家、ノーベル賞受賞者)の名言に加えて、私のスキー指導経験上の喜び、つまり、スキーのよろこびを分かち合う喜び、その生甲斐というものがそこにあるからだと思う。

子供たちと共にスキーをし、その喜びを知ってもらった時の子供たちの目の輝きを見た時。ご年輩の方々のスキー指導に携わり、スキーの真の喜びと、スキーを通じて出会う人々との友好、自然との身近なふれあい等によって、心身共に健康的な生甲斐を見い出され、これまでの人生感が大きく変わったとよるこばれた時。オーストリアの実例を踏まえ生涯スキー教師として活動できる職場環境を整備し、年長のスタッフや長年の顧客から喜ばれた時、等々人知れず喜びが一杯ある。

私の夢は、生涯スキーを続けることであり、そして人との出会いを大切に、素晴らしいスキーを通じてよき人間関係に発展し得るよう最善を尽し、一人でも多くのスキー愛好家を増やしていく実践者でありたい。

万座スキー学校
校長 黒岩達介(五十二期)



翠樹体育会

会計報告

平成5年度

会計 佐藤 義夫 (58回・サッカー部)

会計 安中 隆一 (65回・バレー部)

監査 丸山 功一 (60回・応援部)

監査 廣田 誠四郎 (64回・陸上部)

収入の部			支出の部		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
繰越金	173,907		総会費	366,594	平成5年10月14日
年会費	300,000	25,000×12部	印刷費	139,050	
総会費	180,000	5,000×36名	事務局事務費	100,000	平成5年度
助成金	300,000	平成5年度より同窓会	理事・役員会議費	140,449	
雑収入	60,759		慶弔費	53,072	
合計	1,014,666		合計	799,165	

差引残高 215,501円 (単位:円)

青春の絆 ラグビー部

ラグビー部の思い出

増田 一臣 (60回)

自分にとってラグビーとはの間に「死」「命」「青春」と年齢を重ねるにつれて、昔懐かしい高校時代へと想いは募ってゆく。

昭和三十三年頃、県内の高校でラグビー部として登録していたチームは七、八校だったと思う。高々、桐工を頂点として前高、高工、藤高、桐高、桐市商、藤



工等であり各チーム共部員不足で悩んでいた。

自分がラグビー部に入部したのは、入学直後の四月十日だった。関東大会の予選がすぐ始まり、今ではとても考えられないが四月二十九日には初試合。そして五月中旬には関東大会に出場(千葉市、対日比谷高校、0対30)と入部した一年生三名(藤井、小坂橋、増田)は三ヶ月余りの間に関東大会まで経験した。それまでの三、四試合は、無我無中で右も左もわからずボールに触れられたかどうか……。

練習は、今でも順番がわかる程単純で基本的な内容だった。ランパスやキック、スクラム、ラインアウト、タックル等々基礎練習の繰り返しである。練習といえ「地獄の夏合宿」を思い出す。一年、二年、三年とそれぞれ違った合宿を経験した。

一年生の時は、夏の迷走台風の為十日間の内七、八日間が雨が降ったり止んだり状態であった。体育館での筋力トレーニングは、腹筋や腕立て伏せをはじめ、

首強化の首倒立等今ではとても信じられないような内容だった。

グラウンドでは、OB戦をはじめ合同合宿の深商との練習試合、走り込みのランパス等で、耳の中からケツの穴まで泥だらけ、毎日、練習が終わるとプールの中に飛び込み、一組しか持っていないジャージやパンツ、そして身体を洗った。

私のポジションは、ロックだった。スクラムの練習や試合中、フロントローの泥だらけのパンツで顔面がすれ、二、三位の擦傷が出来てしまい、二十年近くその痕がうす茶色にシミとして残った。

二年生の合宿は、明治大学の名スタンドオフ和田氏を初め、早大、教育大、青学大の学生が十名近く来高、前年とは正反対十日間快晴続き、夕立を祈りながら真夏の太陽を浴びみっちり走り込みをさせられた。そのお陰で秋には東京国体に出場し、一回戦で優勝した興国高校に

「三年間」ラグビー部

高々を卒業して十四年が過ぎました。

小学生の時に野球を、中学生の時に陸上競技をしてきて何の実績も持たなかった私が、高々を受験しようと思った時、クローズアップされてきたのはラグビーという、それまでそれ程気にかけなかった競技でした。

母親の知人の息子さんがテレビに出るというので見たのが、十八年前の全国大

惜敗した。

三年生の合宿は、グラウンド拡張工事の為初めての校外合宿となった。校外合宿といっても現在のように菅平や草津ではない。宿舎は市役所附近の宿、グラウンドは中央小の校庭、グラウンドとして立横狭い中、街の中での合宿という事で毎日OB達が集まり、部員一人にOB二人という位大勢のOB達に手とり足とり満ちちり搾られた。後で聞いた話だが、七日目位の夜監督の岡田先生よりOB達に、練習を少し軽くするようにとの指示があったとの事、真偽のほどは不明である。

全国大会には北関東大会で、熊谷商工、新潟高を破り四年振りに出場したが、一回戦で山口水産高に負けてしまった。

最後に現役に一言、練習の時から「スタート地点にかけ足を全員で心掛けてほしい」何試合か観戦した中での感想です。(六〇回)

櫻井 清 (81回)

会県予選決勝高々対中央。そこで強い高々を見た私は体が身震いするのを感じ、一瞬にして高々ラグビー部に魅せられてしまいました。高々に無事合格した私はすぐにラグビー部へ入部。その年の新入部員は二十数名でした。中でも私のいた一年八組(担任茂木道弘先生)には、なんと八人もの同志がいたのを記憶しています。



初めての練習試合は対前橋高校でした。前高が移転する直前のグラウンドで行なわれ、結果は負けでしたが、試合後の上級生の姿が大変印象的でした。妙に深刻になり、悲壯感を漂わせ、ただならぬ雰囲気の中、新入部員の私は「これは大変なことなんだ」と感じ、ラグビーに対する姿勢というものを学んだような気がします。そう思ってみてみると、公式戦に向かう電車の中などは、はしゃいでいる者など一人もおらず、目を閉じ必死に集中しようとしていた上級生一人一人の姿が今も目に焼きついています。

そんな姿勢を学んで始まった三年間は、正に本気でラグビーに取り組みさせてもらった三年間でした。遊びもせず、恋愛も

忘れ、勉強も犠牲にしてラグビーをするために学校に通っていたような気がします。朝登校してボールに触り、昼休みにボールに触り、部活の時間に走り回る。家に帰ると疲れて寝てしまい、また朝登校してボールに触るといって毎日でした。

高々のラグビー……俺達のころ……

藤 巻 守 (75回)

最近ラグビーはやっていない。高校時代はフォワードの二列目でプレーし、大学時代はラグビーと無縁で過ごした。社会人になって、酒の席で昔の経歴について口を滑らしてしまい、チームに引っぱり込まれ、地元のリーグで最下位を争うようなチームでプレーするはめになった。

やがてコーチ兼任のような立場になり、試合に出る機会も減り、最近ではボールに触ることもなくなりました。だから、昔のプレーを反省しても、次のゲームでその教訓を生かす機会はないのだけれど、それでも忘れられないプレーがひとつある。

われわれの時代、高々のラグビー部は、ゴール前でペナルティキックを得た場合、フォワードの突進によるトライに固執した。

そのプレーが、現代に通用するかどうかはわからない。きわめて単純、力まかせのプレーである。

相手ゴールに向かってボールを起点に

今思い出しても何がおもしろかったのかわかりません。決して真面目でもありませんでした。当然のごとく、一浪はしました。あの三年間は私にとって大変貴重な三年間でした。

した三角形に布陣し、二手に分かれたフォワードがボールのところをクロスし、一方がボールを持ち、他方がガミミーになる。あとはゴールにだれだれだけというものだ。

大抵、一発で済んだ。止められても無理やり押し込んでトライを取った。ラックにしてサイド攻撃とか、オープンに回すなんてことは誰も考えなかった。

このプレーを失敗したのは一度だけだ。県の代表として、新潟工業と対戦したとき、あと数センチのところまでゴールを割れなかった。

そして、この試合が高校で最後の試合だった。

技術的な弱点を力で補って、相手を蹴散らすようなラグビーだった。

それから時代は移り、スピード、技術、パワーなど、高々のラグビーを形容する言葉は変わった。いつの日かまた、「高々のラグビー」が、全国を席捲する日が来ることを祈っている。

翠樹体育会 会計報告

監査 佐藤 義夫
安中 隆一
丸山 功一
廣田誠四郎

平成6年度

平成7年3月31日まで

収入の部			支出の部		
項目	金額(円)	備考	項目	金額(円)	備考
繰越金	215,501		理事会費	208,077	平成6年12月6日
年会費	300,000	25,000×12部	印刷費	257,500	翠樹13号
理事会会費	170,000	5,000×34名	事務局事務費	100,000	平成6年度
役員会会費	15,000	1,000×15名	役員会議費	97,287	
助成金	300,000	平成6年度同窓より	負担金	21,000	
雑収入	10,258		合計	683,864	
合計	1,010,759				

差引残高 326,895円

先輩、頑張ってます

現役の抱負 その1

陸上競技部

羽鳥 崇文



私達、高崎高校陸上部では、現任部員一人一人が自己の記録更新を目指して、日々の厳しい練習に取り組んでいます。

私達は恵まれた練習環境のもとで、工夫を凝らした練習方法の利用等で、充実した練習を行っています。

また、かつて十種競技で骨折をしながらもアジア大会を制した岩井寿史先生の指導のもとで、陸上部では、ただ競技力の向上だけを指すのではなく、将来社会に出てからも通用するような人間性を育成することを目標としています。

このように私達高崎高校陸上部は、一般に思われているような「ただ走っているだけ」という部とは一味違っていることをわかって頂けたでしょうか。

近年では、数多くの者が県大会で入賞し、関東大会への出場も果たしています。さらに、昨年の高校総体では、男子総合五位入賞という成績を残し、三位入賞という快挙まであと一歩のところまで来ています。

先輩方が今までつくり上げてこられた、この伝統ある陸上部をこれからも、更に素晴らしい部にできるように部員全員が努力していますので、これからも、あたたく見守って下さい。

硬式庭球部

高見澤 圭



今、我々テニス部がかかえている問題は、一人一人の「やる気」である。3F精神の中にもあるファイテ

ィングスピリットというものが感じられない。原因はよく分からないのだが、とにかく残念なことだ。各自技術的にはいい面を持っていると私は思う。実際、夏の新人戦ではいい結果を出せた。他校との練習試合でも大負けするということが少い。みんないい素質があるのだ。しかしそれを磨こうとしないので、ある程度までは勝っても、それ以上勝つことができないのである。また部としての団結力も弱い。個人戦よりも、まとまりや雰囲気も勝敗を大きく左右する団体戦の方が弱いとも感じる。

こんな現状の中で唯一、私がこの部に期待できることは後輩達である。我々三年生と違い、一つ下の二年生は一人一人「やる気」を持っていて。まだ技術的に伸びる余地がたくさんあるが、彼らならきっとがんばってくれると私は思う。我々三年生にとって最後の大会である総体、インターハイ予選がもう間近に迫っている。これらの大会を目の前にして今思うことは、雰囲気の大切さである。実力のある学校ではいい雰囲気を感ずる。その学校の練習風景を実際に見なくても一生懸命練習している部員の姿が目につくのである。高々もぜひそんな学校であってほしい。これからの高々テニス部に大いに期待している。

野球部

高橋 貞幸



伝統校と言われている高崎高校野球部に入学して二年が経ち、今ここで高崎高校野球部員である自分を再度見

直すとともに、「甲子園出場」を目標にチーム一丸となり日夜練習に励んでいます。夏の猛暑、冬の寒さの中の練習はともつらいものがありました。またその上「文武両道達成」という大きな目標に対し自分らは戸惑いを感じましたが、先輩方の雄姿を拝見する度に「自分たちも頑張ればできる。先輩方に負けないよう

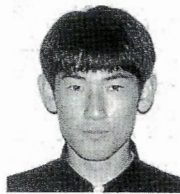
に努力しよう」という気持ちでいっぱいになります。

今のチームは特別大きい選手がいるわけではなく、体力では勝てないかもしれないが、精神力・技術力で、そして伝統の高々野球で必ず甲子園に行きたいと思っています。残された日々を「可能性」に向かって全力投球したいと思っています。

先輩方には、常日頃色々な場面での御協力感謝しています。これから先も御迷惑をかけることがあるかもしれませんが、その時はまたよろしくお願いします。僕らも高崎高校野球部員として恥ずかしくない試合をしたいと思っています。

サッカー部

蘭 郁生



サッカー部は新人戦、県総体、インターハイ、選手権といった四大大会に照準をあわせ、顧問の坂田先生の

指導のもと、毎日厳しい練習をしている。練習は二・三時間で基本的なものから、実戦的なものまで行い、走り込みやダッシュといった体力をつける練習もしている。休日にはほとんど試合が組まれていて日ごろの練習の成果を発揮し、個人の力を確かめることができる。

現在部員は二・三年生で約四十人でこれに新入生が加わり、部員全員がレギュラーを目指してがんばっている。高々と

という勉強を第一とする学校の中でも、部活に熱心に取り組んでいる。だからといって勉強の方をおろそかにしているわけではない。まさに「文武両道」をしつかりと実践しているわけである。

このような我がサッカークラブの目標は、やはり県大会優勝である。御存じの通り、群馬には前橋商業、前橋育英高校という二強がここ数年全国大会へのキップを手に入れている。この二校は全国でもトップレベルだが、この二校を倒さなければ優勝はない。今、まさに高々サッカークラブはこの二校を倒し、全国へのキップを手にするにあたって日々の厳しい練習をがんばっている。



ラグビー部

磯部 敬

三年生十人、二年生二十一人が毎日練習に励んでいます。とりわけ大柄な者がいないので、全員が走りまわります。新人戦では一回しか勝っていませんが、除々に力をつけてきていると思います。ここぞというときの集中力に欠けているという感があるのでそのところをどうにかして強化していきたい、スキのないチームになりたいと思っています。

今年ラグビー部ができて五十年なので、前高との特別試合もあります。ぜひ勝って秋の大会にはずみをつけたいと思います。

今、春合宿を終えて、一つの節目になる総体に向けてのチーム作りをしています。怪我人が多く合宿ではバックスは五人しか練習できませんでしたが、怪我人以外は充実した合宿を送れました。



弓道部

飯塚 隼人

先輩の皆様、はじめまして。現在高々弓道部の部長を務めさせていただいております。飯塚です。昨年結成

十周年を迎え、やっと部としての軌道がのってきたところです。屋根も壁も床もない手作りの練習場、我々は通称「青空弓道場」と呼んでいます。そこでほぼ毎日練習に勤んでおります。

現在部員は三年生9名、二年生14名、計23名で活動しております。練習目標として、正しい射型を身につけ、且つ正確な中を出すことを主眼にしております。

残念ながら現在群馬県の高校弓道の内容はそれほど自慢できるものではないと聞いております。原因は慢性的な指導者不足。現段階では良い打開策がなく、頭をかかえています。しかしそんな中、我が弓道部は射型に重点を置き、毎日の練習

習に生かしております。その結果西毛ではトップ、県内でもならびない程の射型を確立しました。そのかいあって、地方審査ではほとんどの者が初、二段合格、更に三段級の腕前があるものも出てきました。そのようにして射型に関してはほぼ完成した感があるのですが、試合でどのような成績がでないという難点がでてきました。また弓不足や雨の日の練習についても、まだまだ解決すべき所があると思います。

弓道部はこれからの時代です。昨年、高校体育の武道に柔道、剣道につき、弓道の選択が可能となり、ますますの発展が期待されます。これから弓道部を引っ張ってゆく後輩達に、良い伝統を引継ぎ、作って欲しいと思っております。

山岳部について

山岳部

岡田慎一郎



こんにちは、僕は94年度の山岳部部長の岡田です。今は、もう第一線から退いて、あと重要な山行と言え

ば高校総体のみとなりました。

では、これから、僕が部長であった94年度の山岳部の山行、大会の大まかな内容を示したいと思います。

まず第一に4月の新人歓迎があります。新一年生を迎えての初めての山行という

ことで、この山行によって、一年生と二年生のきずなが深まったと思います。山から見ても大変登っていて楽しい山だと僕は思います。

次に、総体の下見があります。これは、五月のゴールデンウィークがつかれるというところもあって大変シヨックでした。そして、総体本番、下見を綿密にした甲斐があつて3位という堂々たる成績が取れました。しかし、僕はあまり活躍していないと思います。そして、翠巒山行があります。94年度は、分かれないうつもの山行のような形で行われました。

次に、夏合宿の訓練として、歩荷があります。今年は、天候が不順だったために、山頂は窮められませんでした。そしていよいよ夏合宿、これには、計画を立てる段階で、一苦労しました。色々あつてよい経験になりました。次に、関東大会、94年度は神奈川県丹沢で、とりあえず、県外の山に行けてよかったと思います。あとは、冬合宿、春合宿がそれぞれ、12月、3月に行われました。春合宿は、高体連の主催する冬期リーダー講習会に参加し様々な経験をしてきました。このように簡単に一年をふり返ってみました。この一年大変忙しく、苦しかったです。これからはがんばりたいと思います。



先輩、頑張ってます

現役の抱負 その2

ソフトテニスと新ルール

ソフトテニス部

松浦 陽一



我々ソフトテニス部は現在、インターハイ、関東大会出場を目標としてはげんでいます。現在群馬県の強

豪チームは、農大二高、前橋商業、渋川高崎工業、太田であります。我々高崎高校は現在ベスト8であり、ベスト4に入れるか入れないかといったところであります。農大二高は群馬県の中でもずばぬけて強く、なまはんかな努力では勝つのは難かしいと思われまます。でも我々はソフトテニスをやっている以上、必ず勝たなければならぬと思っています。

一昨年より今までの軟式テニスと違う名前より、ソフトテニスと変わり、ルールも国際ルールとなりました。

新しい国際ルールにより、今までの前衛、後衛という区別がなくなり、全メンバーがサーブを打たなければならぬとなりました。そしてレシーバーの一人以外はサーブが打たれるまで前に出てはいけなくなり、ローボレーを打つ回数が多くなりました。でも私は旧ルールより新

ルールの方がおもしろいように思われます。理由としては、前後衛の区別がなくなったことにより、前衛にもサーブを打つ楽しさが、後衛にもボレー、スマッシュをする楽しさがわかるようになったからです。

我々は全員で一つの目標に向かって協力し合い、はげんでいます。先輩方の残してくれた伝統に負けない様にこれからも頑張っていきたいと思ひます。

伝統復活への道

剣道部

浅見 智宏



我々剣道部は今『伝統復活』という大きな炎がランブに点り輝き始めました。我が剣道部には、OBで結成されている剣友会があります。剣友会には日頃、技術面、精神面、資金面など大変お世話になっております。

稽古は毎日二時間程で、基本打ち、応用、地稽古等、短い時間を有効に活用しております。部の雰囲気も大変よく、気合を第一に毎日の稽古に精進しております。

成績につきましては、昨年の県選手権において、本数負けで高崎商業高校に惜敗しました。この敗北で我が剣道部は、『一本の厳しさ』を知りました。一年生大会では、みごと第三位に入賞しました。明けて今年の一、新人戦が行われ、宿

敵高崎商業高校を2-0で下し、ベスト8に入りました。しかし我々には『関東大会出場』という大きな目標があります。シード権を得た我々に非常に重要なのは五月の高校総体です。この大会で是非上位に食い込みたいと思っております。

我々三年生に残された大会はわずかに二つとなりました。残された短い時間を有意義なものとし、不撓不屈の精神で、高崎高校剣道部は邁進していく所存であります。

最後になりましたが、先輩方の一層の御指導よろしくお願ひ致します。

関東大会に向けて

柔道部

屋敷 延久



現在、我が高崎高校柔道部は三年八名、二年七名、そして一年は今のところ二名の計十七名、そのうち十

二名が推薦入学であるという、柔道部にとつてはとても恵まれた環境です。恵まれているのはそれだけではありません。校内合宿では、アジアチャンピオンの増地先生、世界チャンピオンの岡田先生など、世界で活躍されている方々が来て下さったり、高々の近くに開業した高橋接骨院の高橋先生が、我が柔道部の専属医になってくれたりと周りの環境も、とても恵まれています。しかし、これだけそろっていな

我々は今だベスト8の壁を破れずにいます。秋季大会でも、異例の学期中合宿をやらせていただき、今度こそ、と意を決して挑みましたが、またもやベスト8で敗れてしまいました。そのせいもあり、冬がこなかった我が高崎柔道部にも、冬が来てしまいました。ですがいつまでも落ちこんでいるわけにはいきません。今年度の大会は「五年連続関東大会出場」がかかった春季大会です。今まで先輩方が築き上げてきた伝統をくずさぬよう努力いたします。

これからも我が高崎高校柔道部は寺町先生の指導の下、「弱い者が努力して強い者に勝つ」をモットーに、頑張っていきたいと思うので先輩方、これからも応援をよろしくお願ひいたします。

水泳部

清水 正樹



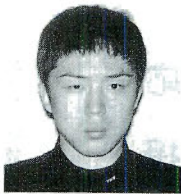
我々水泳部は、昨年、関東大会予選・県高校総体ともに総合二位、また、リレー・個人でも多くの選手を

関東大会に送り込むなど、近年めざましい成績を残し、古豪復活と県内でもささやかれています。水泳部の主な活動内容は、五月から九月までと十月から四月までの二つに大きく分けられます。五月から泳ぎ始め、関東予選に向け六月には一週間の校内合宿

を行い泳力を高めます。そして三つの大会、関東予選、高校総体、新人戦に臨みます。シーズンオフには、主に陸上トレニングを行い、週一度のペースで温水プールに行きます。そして伝統となつてゐる海への合宿も部員の団結のために行われています。

我々は、自己を高め、集団におけるマナーや、チームの団結力を強めるということを念頭におき日々部活に熱を燃やしています。今年、インターハイ、関東大会出場のためにも士気を高め部員全員で協力し、目標を達成していきたいです。そしてチームとしての最大の目標である県制覇に向けて、全力を尽くします。

最後に日々お世話になっている顧問の町田先生、そして、かげとなつて水泳部を支えてくれたOBのみなさんにこの場を借りてお礼を申し上げます。水泳部の伝統に新しいページが加えられるように努力していきます。



バスケットボール部

角内 創

現在、我々バスケット部は三年生十四人、二年生十三人、一年生は今のところ推薦で五人、計三十二人で

活動しています。

昨年の実績としては、県総体ベスト8インターハイ予選ベスト8というあまり

ふるわない成績ですが、名将立見先生、水上先生、町田先生、拓殖大でコーチ業を学んできた渡辺さんのご指導のもと、日々鍛錬しています。

今は、負けないペースをつくるため、ディフェンスを中心とした練習に始まり三対三、五対五などの実戦練習をしています。今度の県総体ではなんとか県の優勝争いに加わるために、ディフェンスの練習は決して楽しいことではないのですが、皆心一つにして頑張っています。

我々三年生は後数カ月で引退するわけですが、今までつらく、そして厳しい練習を共に耐えてきた後輩達の中には、素晴らしい素質を兼ね備えた選手が何人もいるので、これからより一層努力し、一人一人が自覚し、チーム一丸となつて、高崎高校バスケット部の伝統の復活と、県大会優勝を目標に頑張ってもらいたいと思います。

関東大会へ向けて

卓球部

北村 貴博



現在の高々卓球部は、ここ数年低迷がみであった卓球部とは一味違います。まず、最近の主な戦績は、団

体では総体ベスト16、新人戦ベスト8、個人でも総体で五回戦(ベスト32)、学年初でベスト16、全国ジュニア予選でベスト8、そして新人戦ではなんと全国大会

出場という快挙を成し遂げました。卓球が全国大会出場というのは、かなり久しぶりのようです。これも偏に顧問の小笠原先生や練習を見に来て、熱心に指導して下さる小沢先生や、OB会、大会などでアドバイスを下さるOBの方々のおかげだと思えます。

しかし、部員達は、この結果に満足することなく、毎日少ない練習時間を有効に使い一生懸命頑張っています。練習は、放課後約二〜三時間くらいで大会前には日曜日にも練習しています。また夏休みには、合宿を行って夏の暑さにも負けないくらいの体力作りをしたりしています。

今年の目標はズバリ、団体で三位以内に入り、個人ベスト8へ入り、関東大会へ出場することです。そしてもう一つ、去年惜しくも4対5で負けてしまった、高前定期戦に勝つことです。今、一人一人が「やる気」を出して一生懸命頑張っているので応援して下さい。

スキー・スケート部

小泉 裕介



冬の間、北風を受け毎日寒いくとこえながら和田橋を渡っていたのが、早いもので着々と春の足音が

聞こえるほどになりました。社会人になれる、または大学生としてスキーを楽しむのであろうスキー部の先輩方、お

元気でしようか、僕は現在25人という大所帯ではありますが、先輩方が想像されるような部活動を今も続けています。おわかりのとおり、僕達の部活の根ざすものは「自由」であります。毎週月・水・金曜日、部活をしたい者が集まり、話し合った後に部活をする。スキーに關しても、競技スキーに熱中している者、エレガントスキーを楽しんでいる者ときまぎれです。しかしインターハイ予選、関東大会予選、また春の新人戦には部員のほとんどが参加しました。

大会では一つだけみんなの目標があります。それは、「完走すること」です。なぜかといえば、どんなにうまく滑っていても最後の旗門をくぐれなければ失格になるけれど、どんなに転んでもゴールにたどり着けばポイントを得られ、次の大会ではいいゼッケンをもたらせるからです。そして一年生は特にこのことに留意するようにしています。

大会では残念ながら良い成績を残すことはできませんでした。でも皆ほとんどがっかりしてはいません。なぜなら「今この時点で自分が伸びている」という確信があるからだろうと思います。他の学校よりも練習する日数は少ないでしょうが、皆このひと冬で上手になりました。

最後に、お世話になつてゐる顧問の吉田先生に感謝し、これからもスキー部がより充実した部活であるよう祈つていきます。

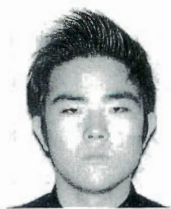


先輩、頑張ってます 現役の抱負 その3

真の応援団として

応援部

神田 豊隆



昨年六月に第十四代応援団として発足してから、早いものでもう十カ月が経とうとしています。その間

我々は、夏の高校野球応援、定期戦応援、そして全校集会における校歌・翠巒斉唱のリーダー等を務めてまいりました。

夏の高校野球応援においては、前年の不評もあり、吹奏楽部や野球部と数回合同練習をしてから臨みました。結果はいくつかの反省点も残してしまいましたが、高々生の勝利への情熱をまとめ上げることができたと思っております。

定期戦応援においては、開閉会式とも高々生が前高生の何倍もの声で校歌を歌い上げることができ、結果は敗れはしたものの、応援団として高々生の団結を強めるのに大きな役割を果たせたことをうれしく思っております。

近年、我が高崎高校は大学受験においては非常に立派な成績を収めております。しかし反面、生徒の活気も非常に奪われてきていると感じられます。全校集会に

おいても我々の押忍の声に対しての返事が非常に小さく、校歌の翠巒においては歌詞すら覚えていない者、そしてその上生徒手帳を持参せず、雑談をしている者まで見受けられます。

応援団は生徒のエネルギーを一つにし、その団結を強める為に存在します。高々が行事の時のみならず、日常から活気あふれる学校であるよう、我々は努力を続けていくつもりです。

軟式野球部

林 秀和



我々軟式野球部は、月・水・金の週三回、八千代橋の河川敷のグラウンドで練習に励んでいます。練習は、

打撃練習や守備練習を中心に、試合を想定した実戦練習を折り混ぜながら、日没まで頑張っています。部員は、三年と二年を合わせただけで三十五人と多人数ですが、監督、選手が一丸となって、関東大会出場を第一目標としています。

昨年度の成績は、まず高校総体優勝、そして県代表として出場した春季関東大会では、一点差ゲームをものにして勝ち上がり、決勝では、延長の末敗れはしたものの準優勝と輝かしい成績をおさめることができました。また、新チームになって最初の大会である全国大会県予選でも三位と健闘しました。

最後の大会に向けて

空手道部

住谷 俊輔



現在、空手道部は五月の高校総体、六月のインターハイ予選に向けて日々練習に励んでいます。

しかし、成績はと言うと、一・二年生大会、新人大会ともに組手では二回戦敗退、型でも予選敗退というように低迷しています。

昨年、一昨年には団体組手ベスト8という成績を残しているので、この成績に負けぬように、部員一人一人が自覚を持って練習をしています。最近では二年生の成長が著しく、毎日の練習ではそれを感じています。

我々三年生は、部活をする日もわずかなりりましたが、高校総体、インターハイ予選では今まで練習してきた成果を十分に発揮し、悔いの残らない試合をしたと思います。



バレーボール部

金井 直也



今、私たち高崎高校バレーボール部は、残る大会の総体と、インターハイ予選での優勝を目標として頑張

っています。新チームを作ってから、竹田杯、春高予選などがありました。満足のいく結果が得られず、今、チーム一丸となって毎日の練習に励んでいます。

翠巒のバレー部OBの方々が、私たちの練習試合の相手となってくれた時など、私たちチームの向上のための指導や、よきアドバイスには本当に感謝しています。また、チームの技術力の向上や、試合形式の練習などには、経験を積み、試合に慣れるためにも、練習試合や、遠征合宿が必要であり、休日や長期休暇も返上し、頑張っています。しかし、先輩たちの時と変わらず、『文武両道』を基本においているので、暇を見つけて勉強をするなど、部活、勉強ともに全力で頑張っています。

夏や冬の基本的な体力、筋力をつけるためや、新入生のトレーニングのために使っているトレーニング機や合宿や遠征などへの援助を決して無駄にしないように、これからも一生懸命頑張っていきたいと思えます。

平成6年度 高々運動部活動状況

- ①平成6年度県総合体育大会
- ②関東大会県予選会
- ③関東大会
- ④全国高校総体県予選会
- ⑤全国高校総合体育大会
- ⑥国民体育大会
- ⑦県高校新人大会
- ⑧その他の大会

(注) ①②は兼ねる種目あり

◎硬式野球

- 春季関東地区高校野球大会群馬県予選
 - 1回戦 高崎6-10 渋川
 - 2回戦 高崎5-14 伊勢崎東
 - 3回戦 高崎2-14 高崎工
- 全国高等学校野球選手権群馬大会
 - 1回戦 高崎5-14 藤岡北
 - 2回戦 高崎2-17 桐生
- 秋季関東地区高校野球大会群馬県予選
 - 1回戦 高崎3-10 富岡
 - 2回戦 高崎10-12 富岡実

◎バレーボール

- ①4回戦 高崎2-10 伊東
- 準々決勝 高崎2-10 渋川
- 準決勝 高崎0-2 東海大菅生(東京)
- ③1回戦 高崎2-10 伊東
- ④4回戦 高崎2-10 高北
- 準々決勝 高崎2-10 桐南
- 準決勝 高崎2-10 前南
- ⑦3回戦 高崎2-11 前橋
- 4回戦 高崎0-12 桐商

◎卓球

- 総体 団体 ベスト16
- 個人 ベスト32
- インハイ予選 団体2回戦
- 国体予選 個人5回戦
- 新人戦 団体 ベスト8
- 個人 ベスト8

◎バスケットボール

- ①1回戦 高崎81-41 前南
- 2回戦 高崎85-36 富岡
- 3回戦 高崎68-48 中央
- 準々決勝 高崎47-70 前南
- ④1回戦 高崎147-11 武尊
- 2回戦 高崎98-13 藤岡

◎ラグビー

- 総体 1回戦 高崎13-12 渋川
- 2回戦 高崎7-17 藤岡 (抽選負)
- 一年生大会 1回戦 高崎24-10 県央
- 準決勝 高崎26-17 桐生
- 決勝 高崎0-173 農大二

◎サッカー

- ①1-3回戦シード
- ②2回戦 高崎0-10 樹徳 PK 4-5
- 3回戦 高崎3-10 勢多農
- 4回戦 高崎0-11 前東
- ⑦1回戦 高崎6-11 伊勢崎工
- 2回戦 高崎0-11 渋川工
- ⑧県高校サッカー選手権
 - 高崎2-10 藤岡
 - 高崎3-10 渋川工
 - 高崎0-10 高崎工 PK 3-4

◎柔道

- ①団体 第5位
- 1回戦 高崎2-11 興陽
- 2回戦 高崎4-10 前西
- 3回戦 高崎1-14 前商
- 4回戦 高崎4-11 高北
- 5回戦 高崎3-11 農二
- ③団体
 - 1回戦 高崎0-12 横須賀学院(神奈川)
 - 2回戦 高崎4-11 真岡(栃木)
- ④団体 ベスト8
 - 1回戦 高崎3-10 桐一
 - 2回戦 高崎1-14 常盤
- 個人 軽量級 長井秀憲(3年)第3位
- 量中量級 片柳孝洋(3年)第3位
- 重量級 屋敷延久(2年)第3位

- ⑦団体 ベスト8
 - 1回戦 高崎5-10 藤工
 - 2回戦 高崎4-10 伊商
 - 3回戦 高崎2-12 樹徳
- ⑧県強化選手権考会
 - 屋敷 延久(2) 優勝
 - 高橋 紘司(2) ベスト8

◎陸上

- 群馬リレーカーニバル(羽鳥、内田、馬場、今成)
 - 四百m R 11秒16 今成 96 優勝
 - 八百m R 41秒19 今成 96 優勝
- 県高校総体
 - 走り巾 7 m 17 羽鳥崇文 5位
 - 三段 14 m 91 今成 晃 1位
 - 三段 13 m 97 今成 晃 1位
 - 走り高 1 m 80 馬場利幸 1位
 - 円盤 37 m 48 中島 晋 6位
 - 千六百m R 3分21秒34 宮沢賢顕 6位
- 新人戦
 - 百m 羽鳥崇文、今成 1位
 - 三千m S・C 内田大介 6位
 - 走り高 中島 晋 4位
 - 三段跳 北村 武 4位
 - 円盤投 宮沢賢顕 6位

◎水泳

- 関東大会予選
 - 四百mメドレーリレー 森田真太郎 3位
 - 四百m個人メドレー 森田真太郎 2位
 - 二百m個人メドレー 森田真太郎 3位
 - 二百m背泳 皆川尚久 2位
 - 二百m背泳 上岡英一 優勝
 - 二百m背泳 皆川尚久 2位
 - 二百m背泳 上岡英一 優勝
- 県総体
 - 四百mリレー 上岡英一 2位
 - 四百m個人メドレー 森田真太郎 優勝
 - 四百m個人メドレー 森田真太郎 優勝
 - 四百mメドレーリレー 皆川尚久 3位
 - 二百m個人メドレー 森田真太郎 優勝
 - 二百mフライン 皆川尚久 2位
 - 二百m背泳 上岡英一 優勝
- 新人大会
 - 四百mリレー 2位

◎軟式野球

- ①団体戦 高崎3-10 興陽
- 2回戦 高崎2-11 太田
- 3回戦 高崎1-12 高工
- 4回戦 高崎3-10 伊市高
- ④1回戦 高崎2-10 前南
- 2回戦 高崎0-12 前商
- 3回戦 高崎0-12 鳥塚
- 個人戦 島田、鳥塚、設楽

◎剣道

- 総体
 - 1回戦 高崎2-12 前橋(本数)
 - 2回戦 高崎5-10 伊勢崎工
 - 3回戦 高崎4-10 勢多農林
 - 4回戦 高崎0-10 伊勢崎工
- 県選手権
 - 1回戦 高崎2-12 高商(本数)
 - 2回戦 高崎5-10 富岡実業
 - 3回戦 高崎3-11 高商
 - 4回戦 高崎1-13 常盤(ベスト8)
- 新人戦
 - 1回戦 高崎3-10 高北
 - 2回戦 高崎2-11 高北
 - 3回戦 高崎2-10 中央
 - 準決勝 高崎0-12 農二

◎軟式野球部

- ①2回戦 高崎3-12 桐生
- 3回戦 高崎3-10 育英
- 準決勝 高崎4-12 高工
- 決勝 高崎6-10 前橋
- ③2回戦 高崎1-10 関東一高(東京)
- 決勝 高崎2-11 都立八王子(東京)
- 決勝 高崎1-12 帝京(東京)
- ④2回戦 高崎10-10 桐生
- 3回戦 高崎7-12 桐工
- 準決勝 高崎3-18 高商
- 3回戦 高崎0-13 高工

紙面の都合上、掲載できなかった部の活動状況は次号で報告いたします。

翠 巒 体 育 会 役 員 名 簿 (平成7.5.23)

	氏 名	回	住 所	電 話	学 校 側 顧 問
会 長	山口 正敏	58			学 校 長・古川 功 教 頭・森田 忠義 運 動 部 長・岩井 寿史
副 会 長 (事 業)	秋池 宗一郎	65			
〃 (事 業)	川手 義昭	62			
〃 (庶 務)	横田 茂	55			
〃 (庶 務)	塚越 章司	58			
〃 (庶 務)	木村 洋	59			
〃 (書 記)	小沢 武男	57			
〃 (書 記)	庭田 登志男	68			
〃 (会 計)	佐藤 義夫	58			
〃 (会 計)	高橋 浩生	78			
会 計 監 査	丸山 功一	60			
〃	廣田 誠四郎	64			
顧 問	国峯 善次郎	50			
〃	岩田 武雄	53			
〃	清水 貞保	30			
〃	岡田 由重				
理 事					
陸 上	横尾 信男	65			岩井寿史・長岡秀一・市川敏美 鶴生川隆之・井本嘉宣・船戸秀道 関根正史・浦野克彦・福田 亨 立見賢治・水上光久・町田 仁 木暮 弘・田口哲男・関口穂積 櫻井 清・高橋正四郎 長岡秀一 坂田和文・塩原秋雄・丸山直樹 町田 仁・木暮 弘・安達 淳 寺町良次・箕輪 明・関口 理 栗原大介・小笠原祐治 安達 淳 樽見尚人・小林俊之・増田 泰 関口 理・加藤 聡 植原政明・荒木 隆・櫻井 清 篠原正泰・戸塚英之・丸山直樹 福田 亨 中谷賢一・塚越 究・田村 仁 吉田武彦・岩井寿史・中谷賢一 天野正明・佐藤 熙・戸塚英之 斎藤 勇・浦野克彦・斎藤和義 女屋 浩・荒木 隆・飯塚 光 飯野良二・増田 泰
卓 球	坂本 正樹	71			
軟 式 庭 球	深沢 昇	57			
〃	根岸 博昭	68			
〃	丸山 博	68			
〃	下山 万吉	63			
バ ス ケ ッ ト	須田 修巨	66			
〃	林 進一	72			
〃	橋爪 良真	75			
バ レ ー	岩丸 高明	82			
〃	掛川 稔	82			
ラ グ ビ ー	増田 一臣	60			
〃	上羽 正弘	72			
サ ッ カ ー	阿久 沢 茂	69			
〃	赤羽 英光	73			
〃	清野 哲雄	74			
水 泳	新谷 恭一	54			
〃	小此 木 勝	56			
柔 道	石井 清一	57			
〃	関口 茂樹	63			
剣 道	藤木 正行	69			
〃	飯野 一彦	74			
〃	小池 政一	77			
野 球	小山 潤一郎	69			
〃	清水 正郎	75			
〃	小林 均	77			
応 援	永井 功	65			
〃	堀口 清	65			
〃	秋山 賢治	74			
山 岳					
硬 式 テ ニ ス					
ス キ ー ス ケ ッ ト					
弓 道					
空 手 道					
軟 式 野 球					
マ ラ ソ ン 同 好 会					
編 集 部	大崎 哲朗	77			
事 務 局 事 務 局 長	小林 俊之	76			
〃	櫻井 清弘	81			
〃	木暮 弘	82			

編 集 後 記

桜が散り乗附の山も翠りが目に映る候となりました。機関誌も創刊二〇年目を迎えました。光陰矢の如し、月日が経つのは長い様で短いものだと思ふ今日この頃です。会長も二代目の山口君(58期)となり役員一同頑張つて居りますので、今後共会員皆様のご協力をお願い申し上げます。

母校の一〇〇周年も間近となり、いよいよ募金活動も始まりました。立派な記念事業が出来ます様、会員諸兄にも骨を折つて戴き度いと思ひます。現役の諸君も伝統の文武両道のもと頑張つて居りますが、各部の先輩方、全国大会を目指す後輩へのご指導もよろしくお願い致します。(佐藤・58期)

翠 巒 体 育 第 十 四 号

平成七年五月二三日発行

翠巒体育会事務局

〒三七〇

高崎市八千代町二四一

群馬県立高崎高等学校内

電話

〇二七三(二四)〇〇七四

印刷(有)オーサキ